

～ ここにも活かせるエルメス技術 ～



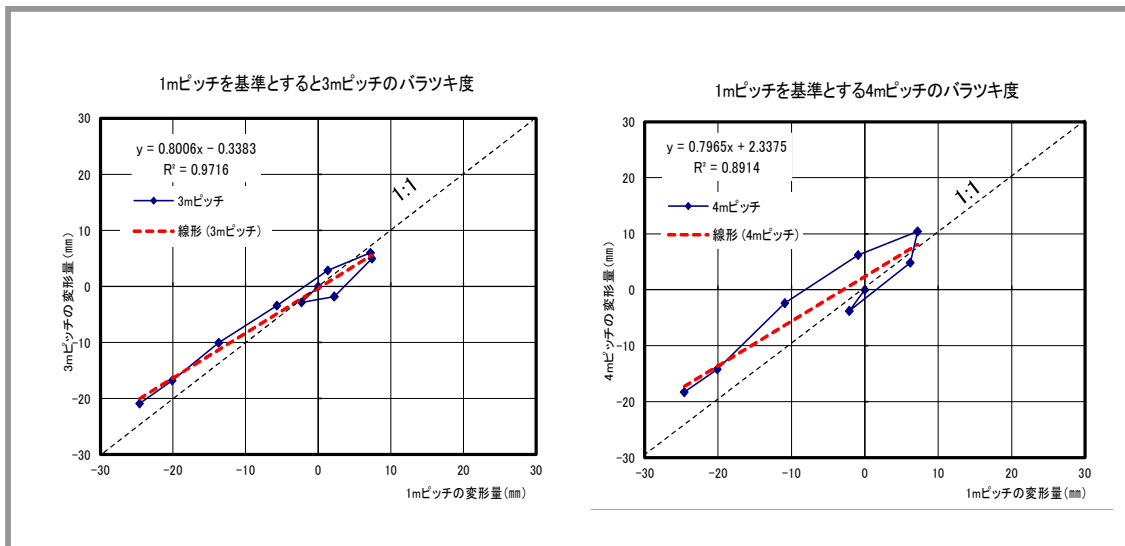
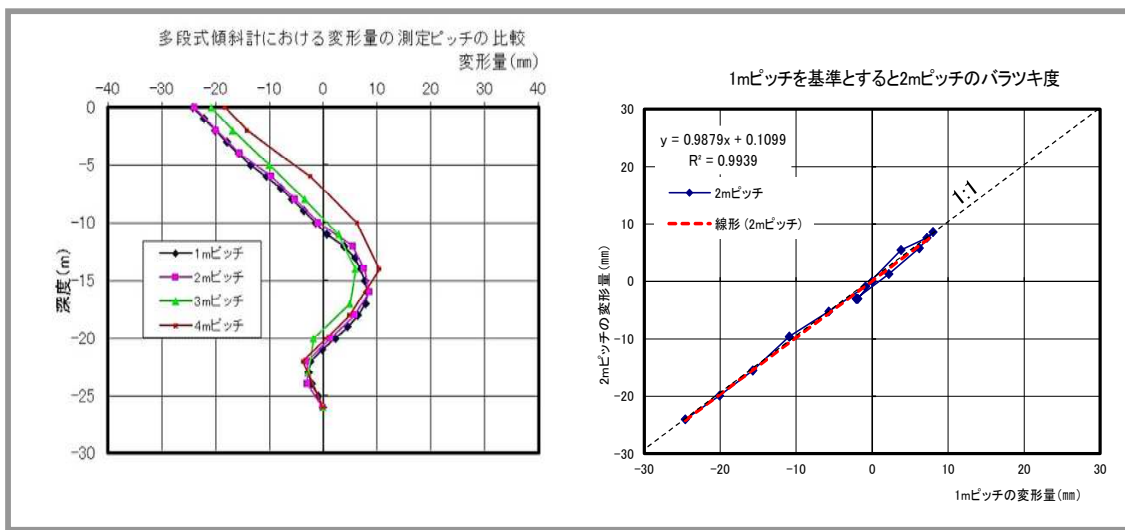
多段式傾斜計における測定ピッチと  
測定誤差の関係から定められる適正な測定ピッチ

Electronic Measurement

山岳トンネル／地下構造	シールドトンネル	○ 地盤／山留め	基礎／ケーソン
近接施工	斜面防災	コンクリート構造	ダム・メンテナンス
鉄道関連	道路関連	橋梁関連	エネルギー関連

◆ 概要

山留め壁の変形測定に用いる多段式傾斜計は個々に見れば精度の高い計器ですが、測定された角度から間接的に計算される変形量は測定ピッチに影響されます。測定ピッチが細かいほど精度は高まりますが、その分、材料費がかさみます。現場計測で必要なことは、精度と経済性です。そのための適正な測定ピッチを設定する必要があります。精度的に言えば、1mピッチの測定がもっとも有効ですが、2mピッチであっても精度的に遜色ないことが現場計測で分かっています。現場では2mピッチを推奨します。



お問い合わせ



東横エルメス 計測技術部  
東横エルメス 営業部

TEL (03) 5829-6088

TEL (03) 5829-6088

ISO9001